

小 学 校

平成 2 3 年度

教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	2
III	研究の方法と内容	3
IV	検証授業	8
V	研究の成果と課題	24

児童の気付きの質を高めるための指導方法

I 研究主題設定の理由

本年度から全面実施となった小学校学習指導要領では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが重要とされている。また、中央教育審議会の答申において生活科の課題として、学習活動が体験で終わっていること、活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていないこと、体験を思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導が十分に行われていないこと等が指摘されている。そこで、生活科の授業において、以下のことを改善しなければならないと考えた。

(1) 「気付きの質の高まり」という概念を教師が正しく理解する。

昨年度の東京都教育研究員小学校生活部会の研究によると、単元ごとの気付きについては明確にされたという成果があったが、生活科における気付きの質が高まるとはどういうことかという点については課題が残った。教師は、気付きの質を高めるために、単元において一人一人の児童にどのようなことを気付かせるのか明確にしなければならない。また、児童が活動や体験を通して比較・関連させながら気付いたことを把握し、気付きの質を高めるために具体的な支援を行わなければならない。そこで、児童の気付きを「知的な気付き」「情意的な気付き」に分類し、気付きの質の高まった姿を明確にして支援を行うことで、児童の「気付きの質の高まり」を具体的に把握することが大切である。

(2) 気付きの質が高まるような指導計画を立てる。

昨年度の東京都教育研究員小学校生活部会の研究から、児童の気付きが高まっていくような指導計画を作成することが必要であることが分かった。また、授業の課題として、児童に何を気付かせたいのか、ねらいが明確でないと、漠然とした学習活動になってしまう傾向にある。気付きの質を高めるには、繰り返しや試行錯誤の活動が大切であり、計画的に気付きの質を高めることが不可欠である。教師が「児童の気付きをここまで高めたい」と目標にする気付きを設定し、児童の気付きが目標に迫るように指導計画を作成する必要がある。気付きには「段階」があり、その段階を高めていくためには、児童が主体的に活動に取り組めるような指導計画を工夫しなければならない。そこで、児童の気付きがどのように高まっていくかを予想した「気付き向上プラン」を作成し、それを基に指導計画を立て、気付きの質が高まるようにすることが大切である。

(3) 児童の気付きの質を高める指導方法を工夫する。

児童の気付きは様々である。教師が指導計画を基に、児童の気付きが高まるように支援や指導をしていかなければならない。例えば、児童の実態を経験の有無や量と思考力・表現力とで分類し、そのタイプ別に気付きの質を高める具体的な支援を行う。伝え合いの仕方を工夫したり、カードや掲示を工夫したりすることや、それらを適宜組み合わせで行うなど、次の気付きにつながるような支援を行っていけば、児童の気付きの質が高まっていくと考えられる。そこで「実態（気付きの高まり）把握表」を作成し、一人一人の実態に合わせた具体的な支援を講じていく。

以上のことを踏まえ、本研究部会では、研究主題を「児童の気付きの質を高めるための指導方法」とし、研究主題に迫るため「単元のねらいとする知的な気付きと情意的な気付きの質を明確にし、それに近付けるための具体的な指導方法を児童に対して行うことにより、身の回りの対象への見方や考え方が広がるとともに思考力・表現力が向上し、児童の気付きの質を高められるだろう。」という研究仮説を立て、基礎研究及び検証授業を通して研究に取り組んだ。

Ⅱ 研究の構想

改善の具体的事項

- ・児童の気付きの質を高めるよう「見付ける」「比べる」「例える」などの多様な学習活動の充実に配慮する。
- ・活動や体験したことを振り返り、整理したり、気付きを他の人たちと伝え合ったりする学習活動を充実させ、その際、言葉や絵による表現活動を一層充実させる。
- ・自然の不思議さや面白さを実感するよう、遊びを工夫したり遊びに使うものを工夫して作ったりする学習活動を充実する。
- ・自然に直接触れる体験や動物と植物の双方を自分たちで継続的に育てることを重視する。
- ・他教科においても生活科と関連する内容を取り扱うなど総合的・関連的な指導の一層の充実を図る。

生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

児童の実態

- ・意欲や関心をもって楽しみながら活動することができる児童が多い。
- ・これまでの生活経験や環境が違うため、思考力・表現力には個人差がある。

授業の課題

- ・容易に気付くことと気付かせたいことを教師が十分に捉えきれていない。
- ・気付きの質を高めるための指導計画が十分に立てられていない。
- ・児童の気付きの質が高まるための指導が十分に行えていない。

生活部会研究主題

児童の気付きの質を高めるための指導方法

十分に対象に関わって、思考力・表現力が高まり、質の高い気付きができる子供

研究仮説

単元のねらいとする知的な気付きと情意的な気付きの質を明確にし、それに近付けるための具体的な指導を児童に対して行うことにより、身の回りの対象への見方や考え方が広がるとともに思考力・表現力が向上し、児童の気付きの質を高められるだろう。

研究内容

- ① 単元全体の気付きの明確化を図り、「知的な気付き」「情意的な気付き」に分類、整理する。
- ② 「気付き向上プラン」を基に、一人一人の実態に合わせた支援を講じる。
- ③ 「気付き向上プラン」を基に支援をした結果、児童がどのように変容したかを「実態把握表」で把握し、具体的な支援策を講じる。

研究方法

文献研究

- ・気付きの概念整理・考察
- ・実践事例の研究
- ・研究員報告書、先行研究の分析・整理

授業研究

- ・授業実践を通して、気付きの分析整理
- ・気付きの質を高めるための指導計画の検証
- ・気付きの質を高めるための指導方法の工夫

Ⅲ 研究の方法と内容

1 研究の方法

新学習指導要領、教育研究員、東京教師道場等の先行研究の分析や研究を行い、気付きの基本的な考え方を明らかにし、児童の気付きの質を高めるための指導方法について検証する。

(1) 文献研究

① 生活科改訂の要点

- ・ 自分自身のよさや可能性、意欲や自信をもつなど自分自身に関する事項を目標として設定
- ・ 気付きの質を高める活動が大切
- ・ 伝え合い交流する内容の新設
- ・ 動植物の継続的な飼育・栽培
- ・ 自然の不思議さや面白さを実感する活動の充実
- ・ 入学当初は生活科中心の合科的な単元構成
- ・ 安全に関する学習活動の一層の充実

② 先行研究の整理・分析

- ・ 学習指導要領の内容（１）から（９）について、児童のどのような姿が見られると気付きの質が高まった姿なのかを分類・整理し、学習指導計画に位置付けることが必要であることが分かった。
- ・ 「人、もの、ことなど」の対象との関わりを深める有効な手だては多くあるが、児童の思いや願いに柔軟に対応できることについての有効な手だてについて分析を行った。
- ・ 気付きが高まった児童の具体的な姿を想定することで、気付きの高まった姿を具体例として学習指導計画に位置付けることが有効であることが分かった。
- ・ 児童のつぶやきに対して問い返したり、称賛したりすることが、児童自身の気付きの認識につながり、体験で終わらせず、言葉によって振り返りをしたり学習シートに書いたりしたことで、気付きを自覚させることが気付きの質の高まりにつながるということが分かった。

(2) 授業研究

部員所属校において、年間５回の検証授業及び全体会において公開授業を行った。

第１回 平成２３年 ６月２７日（月）昭島市立武蔵野小学校 石川 修一教諭

第１学年 単元名「おおきなあれ、わたしのあさがおさん」 内容（７）

第２回 平成２３年 ９月２２日（木）新宿区立淀橋第四小学校 久保田 恵美主任教諭

第１学年 単元名「がっこう だいすき！」 内容（８）（１）

第３回 平成２３年 １０月２１日（金）台東区立金曾木小学校 七海 智美教諭

第１学年 単元名「たのしさいっぱい あきいっぱい」 内容（５）（６）

第４回 平成２３年 １１月・７日（月）西東京市立谷戸第二小学校 中野 美絵主任教諭

第２学年 単元名「かがやくじぶんを みつけよう」 内容（９）（２）

第５回 平成２４年 １月２４日（火）大田区立久原小学校 高橋 有希子教諭

第１学年 単元名「ふゆとともだち～かぜとあそぼう～」 内容（５）（６）

全体会 平成２４年 ２月 ３日（金）台東区立金曾木小学校 七海 智美教諭

第１学年 単元名「もうすぐ２年生」 内容（９）（８）

2 研究の内容

(1) 気づきの概念

生活科の学習は、活動や体験から生まれる「気づき」を大切にしている。今回の学習指導要領の改訂でも、気づきの質を高め、活動や体験を一層充実させる学習活動を重視することが提言されている。

また、小学校学習指導要領解説生活編には、「気づきは、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。」とあり、気づきを深めるためには、児童の主体的な活動が重要であると記されている。また、質の高い気づきにするためには、「思考する活動」も大切にしていく必要があることから、「気づき」と「思考」の定義付けを行った。

児童は、一つの活動や体験の中で、いろいろな思考をし、多様な気づきをしている。しかし、思考は内面的な活動であるため、十分に把握することが難しい。思考は「過程」、気づきは「結果」と考えると、思考の活動が充実していればいるほど、より高い気づきが生まれるといえる。

そこで、「見付ける」「比べる」「たとえる」「繰り返す」「試す」などの思考を促す学習活動を意識的に取り入れていくことで、気づきの質が高められると考えた。

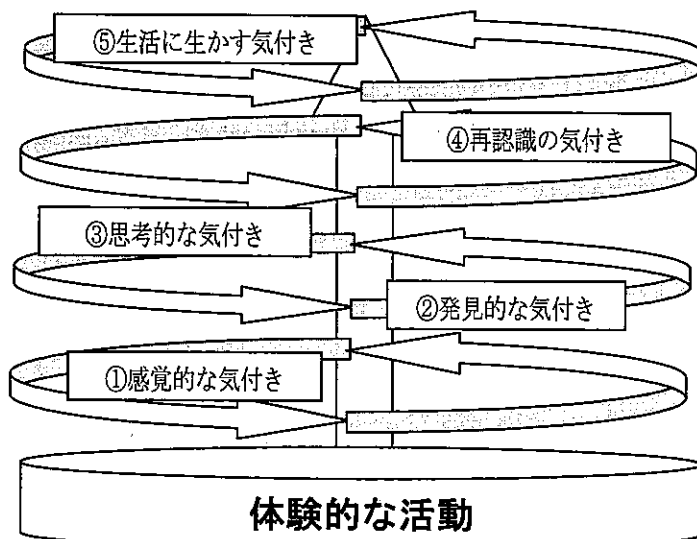
そこで、児童の気づきの質の高まり方は、以下のように段階的に高まっていくのではないかと、仮説を立てた。①感覚的な気づきと②発見的な気づきは、児童自身が既に生活経験で得ていることや既習事項ですでに知識を習得していると見られ、活動や体験を継続的に取り組ませることによって、③思考的な気づき→④再認識の気づき→⑤生活に生かす気づきへと児童を高めさせていくことができると捉えた。

気づきの段階の捉え方

⑤生活に生かす気づき	「これから～したいな。」 活動を振り返って、意欲的に自分の生活に生かそうとする気づき
④再認識の気づき	「～は〇〇といえるのかな。」「やっぱり〇〇だったな。」 活動を通して、改めて実感できる気づき
③思考的な気づき	「～だから〇〇なのかな。」 活動を通して、今までの気づきを結び付けて得られる新たな気づき (繰り返す・試す etc)
②発見的な気づき	「～ということがわかったよ。」 活動を通して得られる気づき (見付ける、比べる、たとえる)
①感覚的な気づき	「～は〇〇だ。」 特に意識しなくても生まれる気づき

- ・生活経験を基にした気づき
- ・直感的に獲得している気づき

〈気づきの段階の捉え方のイメージ図〉



仮説の段階では、気づきの質が①から⑤まで、段階的に高まっていくとしたが、検証を通して左図のように気づきがスパイラルになることで、気づきの質が高まると捉え直した。

(2) 気付き向上プランについて

気付きの質が、各単元の学習前・学習中・学習後と、どのように高まっていくのか具体的に表記した「気付き向上プラン」を作成した。内容は以下のとおりである。

①気付けたい内容を、知的な気付き（単元で習得してほしい知識）と情意的な気付き（自分の思いや願い）に分類する。

②気付きの質を高めるための具体的な手だてを設定する。

③児童の気付きの高まり方を児童の実態から四つのタイプに分類する（「実態把握表」）。

(例) <第1学年 単元名「ふゆとともだち」>

気付きの段階	知的な気付き	情意的な気付き
⑤ 生活に生かす気付き	- 風を受ける向きを変えたり、風を受ける羽の曲げ方を変えたりすると回る速さが変わるよ。 - 冬でも外に出て体を動かせば暖かくなるね。これからは家で遊ぶばかりじゃなくて外に出て遊んでみよう。 - これからは地域の行事にも進んで参加してみよう。	- 今まではお母さんがやっていたけれど、これからは、季節が変わるときに一緒に衣替えの準備をしよう。 - 風で動くおもちゃ、もっとよく回るようにもっと遊んでみたい。 - うちの人や保育園の友達とも遊びたい。
④ 再認識の気付き	- 昔も今も、生活の知恵が生かされていたんだね。 - 日が当たるところは、氷が薄くなってきているよ。 - 風はいろいろな方向から吹いているね。時間や日によって風の吹く向きが違うよ。	- 寒くなってコートを着たり、布団が増えたりしたのはお母さんがわたしたちのためにしてくれたんだね。 - 風が一番吹くところを見付けるとよく回るよ。 〇〇くんのやりかたを真似してみようかな。 - みんなで競争してみたい。
③ 思考的な気付き	- 冬にしかできない行事や遊びもたくさんあるね。 - 寒いと霜柱も長いし、池の氷も厚くなるのかな。 - 強い風が吹くとよく回るよ。 - 風の方を向くとよく回るよ。	- 冬は寒いから、暖くなるために、鍋料理が増えるのかな。 - 風が吹くとおもちゃがよく回って面白い。もっとよく回したい。
② 発見的な気付き	- 池に氷が張っていたよ。 - 霜柱があったよ。 - 冬は風が強いね。 - 冬は空に雲がないね。青空がきれいだね。	- 寒くなってきたから暖房をつける回数が増えたのかな。 - 冬は風が冷たいね。 - 寒いけど、元気に遊んだらぽかぽか暖かくなったね。
① 感覚的な気付き	- 冬になると寒くなるな。 - 白い息が出るね。	寒くなるとコートを着たり、マフラーや手袋を身に付けたりするね。

<実態把握表> 児童の実態を四つの分類に整理し、具体的な支援ができるようにした。

B 過去の生活経験が乏しく、活動の視点を理解していないため、意欲的に活動ができない。しかし、思考力・表現力は高いため表現することはできる。気付きの質が③又は④あたりで停滞する。

例) 知的な好奇心は高く、風の力をうまく利用して動かしたり回したりすることができる。また、それを表現することにもたけている。しかし、何度も試したり、工夫したり、友達と協力したりして楽しむことが難しい。

思考力・表現力

A 過去の生活経験を生かし、活動の視点を理解している。繰り返し活動することで思考力・表現力が高まり、気付きの質が順調に⑤まで高まる。

例) 今までの経験を生かしながら、意欲的に活動に取り組むことができる。活動を通して、風が引き起こす現象を楽しみながら、どのようにすれば更によく回るようになるのかなど考え、表現することができる。

経験

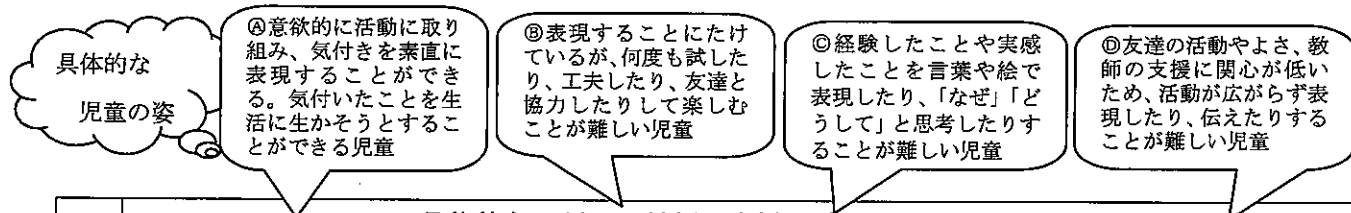
D 過去の生活経験が乏しく活動の視点を理解していないため、意欲的に活動ができない。また思考力・表現力も低い。気付きの質が①又は②あたりで停滞し、気付きの質が高まりにくい。

例) 風の手を動かしながら遊ぶことができない（風輪を手で転がしたり、押したりして回することを楽しんでいる、など）。友達の活動や、教師の支援に対して関心がなく、自分本位の活動が多いため気付きの高まりが低い。

C 過去の生活経験を生かし、意欲的に活動はできる。しかし思考力・表現力が乏しいため、活動の視点を理解していない。気付きの段階が③又は④あたりで停滞する。

例) 意欲的に活動に取り組むことができるが、自分の体験したことや、実感したことを言葉や絵で表現することが難しい児童。風の引き起こす現象を楽しむことはできるが、「なぜ」「どうして」と考えたり、工夫したりすることが難しい。

<具体的な手だて・教師の支援>



具体的な手だて・教師の支援				
	A	B	C	D
⑤生活に生かす気づき	(関) 授業以外でも試したり、遊んだりしてよいことを伝え、継続的に風に関心をもちながら生活することができるようにする。【教師の関わり】 (気) 気付いたことをみんなに知らせることができるよう、掲示板を作成し、いつでも気づきを共有化できるスペースを用意する。【人との関わり・アイテムの活用】			
④再認識の気づき	「すごい！どうやったら、そんなによく回ったの？〇〇くんにも見せてあげて。」 Dの児童と関わりをもたせる。	「上手に回せているね。お友達にも見せてあげようよ。」 友達との関わりを広げるようにする。	「どうしてあっちに進んでいくのかな。不思議だね。」 「なぜ」「どうして」という疑問を投げかけ、思考を促すようにする。	「〇〇ちゃんを見てごらん。一緒にやってみようか。」 Aの児童に関心をもたせる。
③思考的な気づき	(関) 「寒い冬でも外で元気に遊べるように、風で動くおもちゃを作って遊ぼう。」 【発問の工夫・見通しをもたせる】 (思・気) 何度も試したり、思い切り遊んだりできる時間や場を設定する。【十分な体験・繰り返しの活動】			
②発見的な気づき	(関) 「寒い冬でも外で元気に遊べるように、風で動くおもちゃを作って遊ぼう。」 【発問の工夫・見通しをもたせる】 (思・気) 友達と自然と関われるようにする。【グループ編成の工夫】 (関) 風で遊ぶおもちゃの実物を数種類用意しておき、児童の関心意欲を高めたり、自分で選択したりできるようにしておく。【アイテムの活用】			
①感覚的な気づき	(思・表) 写真を用意しておき、冬を想起して、表現しやすいようにしておく。【ICTの活用】 (関) 見付けてきた冬を展示しておける「見付けたよコーナー」の設置【冬を意識できる環境づくり】 (気) 「自然だけでなく、みんなの生活にも変わったことがあります。夏と比べて考えてみましょう。」【発問の工夫】 (関) 風の強い日に屋上に連れて行ったり、吹流しを用意したりしておくことで「風」への興味を高める。【風を意識できる環境づくり・共通体験】 (関) 寒い日に外で遊んだり、冬探しをしたりして「冬」への関心を高める。【導入の工夫】			

(3) 研究主題に迫るため

① 具体的な手だてについて

(ア) 伝え合い・交流

伝え合うことにより新しい気づきが生まれたり、意欲が高まったりすることができる。

(イ) 授業形態の工夫

ペア、グループ、全員など、学習形態を変えることにより、話しやすい環境づくりができたり、自分一人では気付かなかった気づきが生まれたりすることができる。

(ウ) 教室環境の工夫

意識して取り組めるよう教室掲示を工夫したり、成長の変化を児童自身が実感できるようにしたりすることで自己責任感と親近感がわき、自然の不思議さや面白さを実感する活動の充実につながる。

(エ) アイテムの活用

対象への学び・気づきに着目するための、ヒントカード・見本・参考資料などを工夫する。

(オ) 地域の活用

自分の学びが他者との関わりによって更に気づきの質を高められる、また、協同して学習する楽しさ、友達や他学年のよさ、地域の方々の素晴らしさ、自分の成長を実感することができる。

(カ) デジカメ・ビデオカメラの活用

振り返りや成長の変化への対応には欠かせないもので、動植物の記録だけでなく、児童一人一人の活動の様子を記録しておくことにより、具体的な支援を講じる新たな手だても考えられるようになる。

② 教師の支援について

(ア) 教師からの言葉掛け

児童が、あまり気づきが深まらない場合や変容が見られない場合に、見付ける・比べる・例えるを意識させた言葉を掛ける。

(イ) ヒントカードの提示

語彙力が乏しい児童には、キーワード的な言葉を板書したり、カードを提示したりする。

(ウ) ワークシートの工夫

気づきが乏しい児童には、あらかじめ気づきの視点を記入したワークシートを用意する。

③ 言語活動の充実

(ア) 話し合い活動

諸感覚を生かして対象となるものを見たり、聞いたり、味わったりして、自分が気付いたことを友達に話したり、友達の気づきを聞いたりして、共通することや違いを見付ける。また、ペアやグループなど伝え合う人数を工夫する。その後、学級全員で気づきを共有する。

(イ) インタビュー活動

対象によっては、地域の人・保護者・教職員へ、知りたいことや教えてもらいたいことを聞く。

(ウ) 交流活動

上級生・幼児・地域の人など、様々な人々との交流を通して、相手意識をもった活動を設定し、言葉だけでなく感情も交流させるよう工夫する。

(エ) 振り返り活動

体験後や活動後に、単元全体の感想や交流相手への手紙を書くことによって、自分の気づきの変容に気付かせるとともに、相手に伝える楽しさを実感させる。

IV 検証授業

実践事例 1

1 単元名 おおきくなあれ、わたしのあさがおさん (全10時間)

2 単元の目標

○植物の成長の様子に関心をもち、親しんだり大切にしたりする。

(生活への関心・意欲・態度)

○植物の世話の仕方を工夫し、成長の様子を表現する。(活動や体験についての思考・表現)

○植物も生命をもっていることや成長していること、必要な世話の仕方について気付く。

(身近な環境や自分についての気付き)

学習指導要領 生活編 第3章 生活科の内容から

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

3 単元の評価規準

A 生活への関心・意欲・態度	B 活動や体験についての 思考・表現	C 身近な環境や 自分についての気付き
①植物について関心をもち、栽培への意欲を高めている。 ②植物の成長に関心をもち、世話をしている。 ③開花や種取りを喜ぶとともに、植物を使った遊びを楽しんでいる。	①種を観察して気付いたことや感じたことを、絵や文で表すことができる。 ②発芽した喜びを表現している。 ③葉が増えたり、つるが伸びたりする様子を、自分なりに表現している。 ④開花や種取りの様子を、自分なりに表現している。	①種の特徴に気付いている。 ②双葉の数や形などに気付いている。 ③植物が成長していく様子や、毎日の世話の大切さに気付いている。 ④一つの種から多くの種が取れることに気付いている。

4 単元指導計画(10時間扱い)

小単元名	時	目標	学習内容	おもな評価規準
おおきくなあれ	1	育ててみたい植物について話し合い、栽培への意欲を高める。	○植物を育てた経験を想起し、栽培活動のイメージをつかむ。	◆植物について関心をもち、栽培への意欲を高めている。 A①(発言・行動)

たねをまこう	2	土作りなどを行い、栽培の準備をして種まきをすることができる。 種を観察して特徴をつかみ、種や種まきの様子を絵や文で表現できる。	○種の観察をする。 ○種の正しいまき方を知り、種をまく。	◆種を観察して気付いたことや感じたことを、絵や文で表すことができる。 B① (カード・発言) ◆種の特徴に気付いている。C①(カード・発表)
めがでるようすをよくみよう	2	植物の世話を続けるとともに、芽が出た様子を観察し、気付いたことや感じたこと、考えたことを多様な方法で表現できる。	○種から芽が出てきた成長の様子を振り返る。 ○朝顔の秘密を見付ける。 ○気付いたことをカードに記録する。 ○気付いたことを全体で交流する。	◆発芽した喜びを表現している。B② (カード・発言・行動) ◆双葉の数や形などに気付いている。C② (カード・発言・行動)
図工の時間を使って、アサガオの名札を作った。そうすることで、アサガオに対する愛着をもち、世話や観察に意欲的に取り組むことができた。				
せわをしよう	2 (本時1/2)	成長の様子に関心をもち、それに合わせた世話の仕方を知り、開花への期待を高める。	○毎日世話をしている気付いたことを発表する。 ○支柱を立てる方法を知り、支柱を立てる。	◆植物の成長に関心をもち、世話をしている。 A② (行動・カード) ◆葉が増えたり、つるが伸びたりする様子を、自分なりに表現している。 B③ (カード・発言・行動) ◆植物が成長していく様子や、毎日の世話の大切さに気付いている。C③(カード・発表・行動)
はなのようすをよくみよう	3	開花の喜びをカードなどに表現することができる。 花や葉を使った遊びを楽しみ、できた種を観察して成長をまとめ、育てた喜びを味わう。	○今までの成長の様子を記録した絵を示したり、動作で表したりして、発表する。 ○朝顔の花が咲いた様子や思いを交流する。 ○朝顔を育ててきてうれしかったことや大変だったことを話し合う。 ○朝顔の種を取る。 ○種の使い方について話し合う。	◆開花や種取りを喜ぶとともに、植物を使った遊びを楽しんでいる。 A③ (発表・行動) ◆開花や種取りの様子を、自分なりに表現している。B④ (カード・発表・行動) ◆一つの種から多くの種が取れることに気付いている。C④ (カード・発表)

5 研究主題に迫るために

本単元の気付き向上プラン作成

第1学年 生活科 「おおきくなあれ わたしのあさがおさん」

	気付きの段階	知的な気付き	情意的な気付き	手だて A C 共通
5	生活に生かす気付き ↑ 思考力 ↑ 表現力	・形の違う種はどんな花が咲くかな。 ・毎日いろいろな花に水をあげよう。 ・家でも育ててみたよ。	・いろいろなものを育ててみたい。 ・写真にとって残したい。 ・種を誰かにあげたいな。	・他者との交流 (1年生・2年生に伝える) ・話し合い活動 ・友達の話を聞く ・友達に話す
4	再認識の気付き ↑ 思考力 ↑ 表現力	・朝顔は生きているのかな。 ・友達の朝顔がからまってきた。棒を立てよう。	・今まで水やりを忘れてごめんね。 ・これからちゃんとお世話するよ。 ・お世話をして花が咲いたから、しばらくでもさみしくないよ。	・教師の言葉掛け (めあてもたせて活動する。)
3	思考的な気付き ↑ 思考力 ↑ 表現力	・水をあげないと元気がないね。 ・最初の葉が枯れちゃった。なんかな。	・棒を立てて大切にしたら、またつるが伸びてきた。大切にしよう。	・アイテムの活用 (視聴覚機器の活用)
2	発見的な気付き ↑ 思考力 ↑ 表現力	・つぼみの形はラッパみたいですよ。 ・花が○個咲いたよ。 ・違う形の葉っぱが出たよ。	・花が咲いた。水やりをしてよかったです。 ・からまって、かわいいそう。	・ヒントカード (観察の視点を与える。) ・デジカメの活用 (成長の振り返り、活動の記録)
1	感覚的な気付き ↑ 思考力 ↑ 表現力	・前に比べてつるがのびたね。 ・毛が生えている。 ・種は黒くてかたいね。	・早く芽が出てほしいな。	・ワークシートの工夫 ・ヒントカードの提示 (表現の仕方の紹介) ・体験 (アサガオの観察)

A…気付きの質が高まっていく子

B…関わりや経験が少ない子

C…気付きの質が高まりにくい子

6 本時の活動（6/10）

（1）ねらい 以前の様子と比べながら朝顔を観察し、朝顔の成長に気付く。

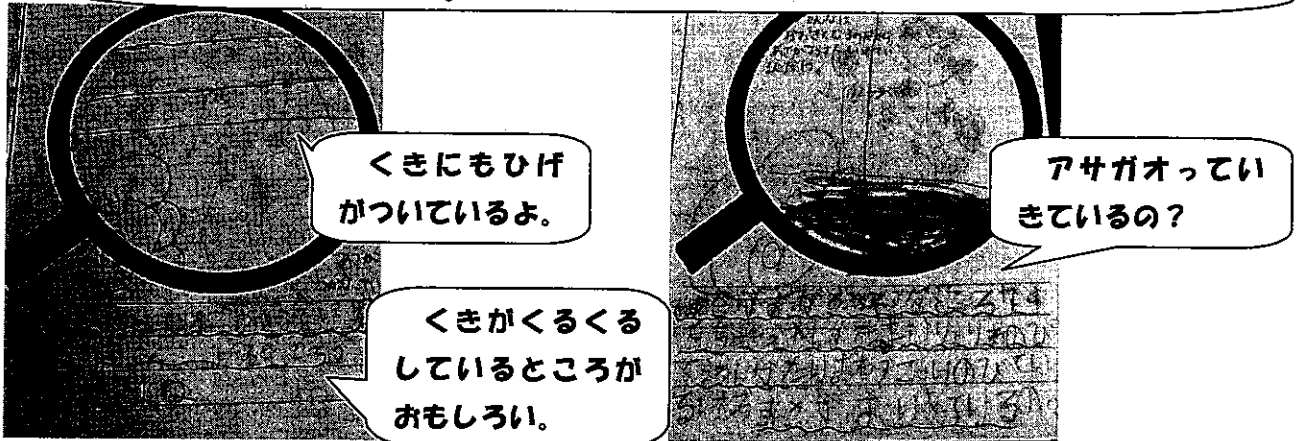
（2）展開

学習活動 ◇教師の支援	児童の様子
1 これまでの朝顔の成長の様子を振り返り、本時のめあてを知る。	これまでのあさがおとの変化を意識して、観察していた。「前よりもつるが長くなっていました。あさがあってすごいな。」
あたらしいあさがおさんのひみつをみつけよう！	
◇成長の様子を示した写真を提示し、成長の過程を捉えやすくする。	朝顔に直接触れ、その手触りや大きさなど、友達の気付きと共有しながら活動できた。
	
2 これまでに見付けた朝顔の特徴や成長を発表する。 3 自分の朝顔を観察して、新しく発見した秘密や思ったこと、考えたことをカードに表す。	「つるがのびてくれてありがとう。これからいつもみずやりをするよ。もっといっぱいのびてほしいな。」
◇観察するときのポイントを確認し、様々な諸感覚を使って観察するよう促す。	
◇表現することが苦手な児童には、「表現の花」の書き方や友達が伝えてくれたことを思い出しながら書くよう助言する。	児童の新しい気付きや発見を記録に残したり、全体に広げたりするためにデジカメを活用する。
◇朝顔の気持ちを考えられるよう、必要に応じて声掛けをする。	
4 友達の育てた朝顔のよいところや発見したことを、伝え合う。	
◇友達同士で交流し、共通しているところや違うところを見付けることができるようにする。	
5 発見した秘密や思ったこと、考えたことを発表する。	
6 次時の予告をする。	

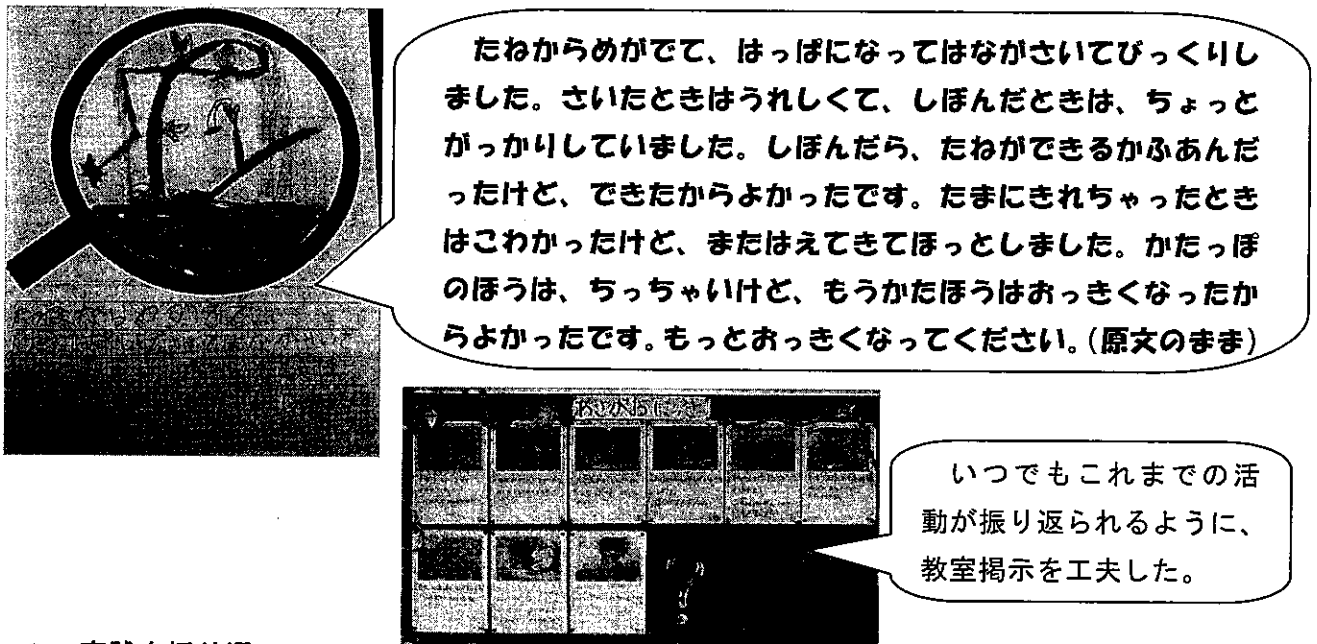
7 研究授業後の児童の活動の流れ

★支柱を立てて、観察をしました！【第7時】

「前と比べて、違うところを見付けよう」「どうしてあさがおは大きくなったのかな」と教師から声掛けをした。



★種取りをしたときの児童のワークシート【第9時】



8 実践を振り返って

- ・初めに時間をかけてアサガオと関わる時間をとったことがよかった。その時間に、つぶやきなどで多くの気づきを把握することができた。
- ・友達同士で自然と交流していたが、具体的な場の設定が必要である。交流活動が個の気づきを広めるためには有効であるので、観察したことや発見したことを互いに伝え合う場面を設定することが効果的である。
- ・教室掲示や環境を整えることで、植物の世話や観察への意識付けができた。
- ・全体で共有する気づきと一人一人の気づきがあるので、その両方の質を高めていく必要がある。気づきを全体に広げたり個人の気づきを深めるために、交流活動を意識的に取り入れていくとよい。また、学級全体で話し合える雰囲気をつくっておく必要がある。
- ・気づきは多くあり、それがつぶやきや友達に伝える時には表れるが、カードに書く際には表れていない。今後は、表現させていく指導の工夫が課題である。

実践事例 2

1 単元名 「がっこう だいすき！」(全35時間)

2 単元の目標

上級生や学級の友達と触れ合ったり、様々な施設・整備を利用したりする中で、学校が自分にとって楽しく安心して過ごせる場所であることに気付き、これからの生活に意欲をもつことができるようにする。

学習指導要領 生活編 第3章 生活科の内容から

- (1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々と関わる楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

3 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	・学校の施設、設備をすすんで知ろうとしたり、上級生や学級の友達と触れ合ったりしようとしている。
活動・体験についての思考・表現	・上級生や学級の友達と活動し、楽しかったことなどを表現することができる。
身近な環境や自分についての気付き	・学校には様々な施設があり、学校生活を支えてくれている人々がいることに気付く。

4 単元指導計画(35時間扱い) (関：関心・意欲・態度、思：思考・表現、気：気付き)

※ 本単元は、スタートカリキュラムとして他教科等と関連させて実施したため、単元指導計画は生活科で活動した内容を記載した。

		活動内容		単元の評価規準
学校だいすき！	みんなで遊ぼう	○校庭や教室で遊ぶ。	関	・友達とすすんで関わろうとしている。
			思	・遊びを楽しもうとしている。
			気	・決まりやマナーを守り、遊具等を利用して楽しく遊ぶことができる。
	学校探検をしよう⑩	○行きたい場所を決め、探検の方法を相談する。 ○グループで探検に行き、見てきたことを伝え合う。 ○もう一度行きたい場所を決めて探検に行き、確かめたてきたことを伝え合う。	関	・学校のいろいろな場所に行こうとしたり、学校にいるいろいろな人に関わろうとしたりしている。
			思	・グループで協力して学校探検をすることができる。 ・見付けたことや行ったところの様子を友達や先生、家の人などに伝えることができる。
			気	・学校にはいろいろな施設や設備があることに気付いている。 ・学校はいろいろな人がいることに気付いている。

	学校の周りを歩こう・公園で遊ぼう②	○学校の周りや、学校から公園までの施設等を調べる。 ○公園の遊具を使って遊ぶ。 ○草花や生き物を見付けて遊ぶ。	関	・友達と遊びを楽しもうとしている。 ・動植物を見付けようとしている。 ・安全に気を付けて道路を歩こうとしている。
			思	・遊び方を工夫して遊具で遊ぶことができる。 ・学校から公園までの施設や、公園にあるベンチや水道などの施設を見付け、実際に使用することができる。 ・遊んだことや見付けたことを自分なりに表現する。
			気	・公園の動植物に気付いている。 ・時計、水道、ベンチなど、公園にあるものに気付いている。 ・安全を守るための施設があることに気付いている。 ・友達と一緒に遊ぶと楽しいことに気付いている。
		○遊具を使って工夫して遊ぶ。	関	・新しい遊びに挑戦しようとしている。 ・動植物を見付け、遊ぼうとしている。 ・友達と仲良く一緒に遊ぼうとしている。
			思	・遊んだことや見付けたことを表現することができる。 ・ルールを変えたり、新たなルールを作ったりして遊びを自分なりに工夫することができる。
			気	・天候によって公園の様子が違うことに気付いている。 ・公園には水道やベンチなど、遊具以外のものがあることやいろいろな人が利用していることが分かっている。 ・公園はみんなが使うところであり、大切に使うこと、ルールやマナーが大切であることが分かっている。
		○草花や生き物などの自然を利用して遊ぶ。	関	・動植物を見付けたり利用したりして遊ぼうとしている。
			思	・遊んだことや気付いたことを表現することができる。
			気	・動植物の特徴について気付いている。 ・友達や自分の遊びのよさに気付いている。
		○秋の季節を感じたり、季節の特色を使ったおもちゃを作って、みんなで遊ぶ。	関	・秋の身近な自然に関心をもつことができる。 ・みんなで楽しく遊ぼうとしている。
			思	・秋の自然を利用し、おもちゃや飾りを繰り返し作りながら工夫や改良することができる。
			気	・秋の自然を利用して遊んだり、遊びに使うものを作ったりするおもしろさに気付いている。 ・秋の自然物の特徴や、自然の不思議さに気付いている。
学校だいすき！	学校だいすき！③	○特別教室で行いたい活動について考える。 ○6年生にお願いに行く。 ○6年生と特別教室で活動する。【本時】	関	・学校の施設・設備をすすんで知ろうとしたり、上級生や学級の友達と触れ合ったりしようとしている。
			思	・上級生や学級の友達と活動し、楽しかったことなどを表現することができる。
			気	・学校には様々な施設があり、学校生活を支えてくれている人々がいることに気付く。

5 研究主題に迫るために

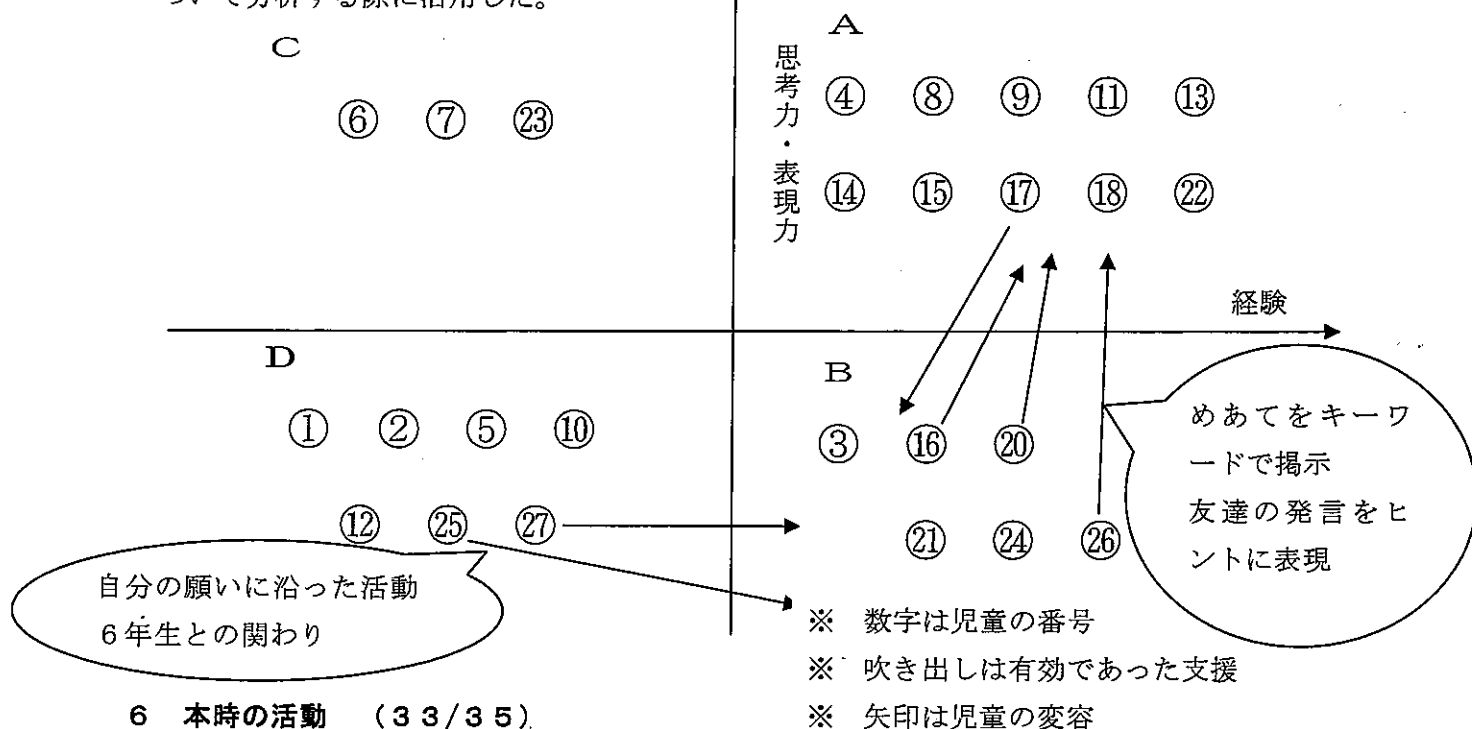
(1) 本単元の気付き向上プラン作成

単元「がっこうだいすき！」の小単元「学校だいすき！」3時間におけるプラン

気付きの段階	知的な気付き	情意的な気付き	A～Dの実態に対する具体的な手だて・教師の支援			
			A	B	C	D
5 生活に生かす 気付き	・学校って楽しいな。 ・学校っていろいろな勉強ができるんだ。 ・6年生にもっと聞きたいな。	・6年生ありがとう。 ・家でもやりたいな。 ・次は、〇〇の部屋に行きたいな。 ・来年の1年生に教えたい。			ICTの活用○振り返り	
4 再認識の気付き	・何年生になったらこの教室を使うのかな。 ・道具の使い方が分かった。 ・危ない物がたくさんあるんだ。 ・こんな音が出るんだ。	・6年生ってやってばりすごいな。 ・もっと別の道具を使ってみたいな。 ・みんなで作って食べたいな。 ・3年生になったら、この部屋を使いたいな。	他者との交流○6年生との活動 ○6年生からのメッセージ		気付きの共有○友達の話聞く○友達に話をする (各活動場所同士、他の活動をしていた友達へ)	
3 思考的な気付き	・理科室だから実験するのかな。 ・実験する部屋だからいろいろな道具があるのかな。 ・4年生が木を切っていた。のこぎりがあ	・家庭科室で料理をしたい。 ・図工室で家を作りたい。 ・理科室で実験したい。 ・パソコン室で漢字を打ってみたい。			教師の声掛け○興味を引き出す	
2 発見的な気付き	・工作できる部屋があるって聞いたよ。 ・何の先生だろう。 ・何の部屋だろう。 ・どこへつながっているんだろう。 ・学校っていろいろな部屋があるんだ。	・校長先生ってどこにいるの。 ・この教室を使ってみよう。 ・いくつ教室があるのだろう。 ・もっと自分たちでも探検してみたいなあ。 ・迷子になっちゃいそう。			2段階での表現○声に出す→書く ○友達の声を出す→書く	
1 感覚的な気付き					アイテムの活用○聴・触・嗅・視・味覚など、諸感覚等を使う活動 写真の掲示○想起、確認、振り返り	
					十分な体験・交流○学校探検○教職員へのインタビュ活動 ○2年生との交流	
					デジタルの活用○振り返り	
					ゲーム的要素○ミッション型学校探検	

(2) 実態（気づきの高まり）把握表作成

児童の実態を四つの分類に整理し、実態把握表を作成した。実態把握表を基に、授業実施中の発言や観察、授業後のワークシートの記述から、児童の変容を記録し、有効な手だてについて分析する際に活用した。



6 本時の活動 (33/35)

- (1) ねらい 特別教室で行いたい活動について考える。
- (2) 展開

	児童の活動 ◇教師の支援	児童の様子
導入	1 これまでの活動（学校探検）を振り返る。	○学校や、公園等で遊んだことを思い出していた。
展開	2 学校クイズを行う。 ・家庭科室◇包丁の音（聴覚） ・図工室◇おがくず（触覚・嗅覚） ・理科室◇塩の結晶（視覚・味覚） ・音楽室◇太鼓の音（聴覚） ・PC室◇文字（視覚）	○音を聞いたり写真を見たりして、どの教室でどのような活動をしているのか想像していた。 ○学校は、教室以外に多くの部屋があり、いろいろなことに挑戦できることに期待を膨らませていた。
	3 本時のめあてをつかむ。 五つのおへやで チャレンジ したいことを かんがえよう！ ○五つの部屋で、したいことを発表する。 ◇2段階で、表現させる。 ◇穴埋め式のワークシートを用意する。 ○願いをかなえてもらう相手を考え、発表する。	① 字で表すのが苦手な児童が声に出して発表できる。自由に発表できる。 ② 書く時のヒントになる。 短い時間で記入できる。
まとめ	4 本時の活動の振り返り、次時への見通しをもつ。	○6年生と交流できることに期待し、どのような活動ができるのか考えていた。

7 研究授業後の児童の活動記録

★各活動場所に分かれてチャレンジした。【第2時】(板書記録)

がっこうだいすき！

6ねんせい
ねがいをかなえてもらおう！

かていかしつ

ずこうしつ

りかしつ

おんがくしつ

ばそこんしつ

6ねんせいにつたえよう

チャレンジ

チャレンジしたときどんなきもちだったかな。

いっしょ！

6ねんせいといっしょにかつどうしてどんなきもちだったかな。

めあてをもって活動できるように掲示！

★教室ごとの活動について【第3時】

がっこうだいすき！

チャレンジ

発表の段階①
まずは声に出して自由に発表した。

友達の発言がワークシートを書くときのヒントに・・・

6ねんせいといっしょにかつどうして、きづいたことをはっぴょうしよう！



いっしょ！

活動の写真をプロジェクターで映すことで、活動時を容易に想起できるようにした。

活動時のテーマを忘れないように掲示

ワークシート

発表の段階②
ワークシートで振り返りの場を設定した。

言葉や文で表すことが苦手な児童もいるため、絵でも表せるようにした。

がっこうだいすき！ 1ねん2くみなまえ

☆チャレンジできた！





☆6ねんせいといっしょにできて たのしかった！





チャレンジ

いっしょ！

二つのキーワードに色を塗ることで時間をかけずに自己評価ができるようにした。

-17-

8 実践を振り返って

- ・自分の思いを表現させる工夫がとても重要だと感じた。今回の友達との交流は有効であった。個人と集団の使い分けにより、気付きの共有化が図れた。
- ・気付き向上プランに、手だてや声掛けを具体的に明記するとよい。
- ・気付きの高まりを実態把握表に表し、次時へつなげたことで実態に合わせた手だてがしやすかった。また、高まりが見られなければ手だてが有効でなかったとし、改善も図れると考えた。
- ・本時の授業後の活動において、場所が分散する場合は気付きの見取り方が重要と感じていたので、各活動場所の担当教員に、活動のねらい、活動計画、児童の実態（ＡＢＣＤ）、気付きの見取り（見取り表）など事前に十分共通理解をして活動に臨んだ。そのことで、気付きの把握がしやすく気付きの高まりを見取ることができた。

実践事例 3

1 単元名 「たのしさいっぱい あきいっぱい」

2 単元の目標

秋の校庭や公園で、身近な動植物の様子を観察して季節の移り変わりを感じるとともに、秋の自然を利用して自分なりの秋を見付けて、自分たちの生活を楽しむことができる。

学習指導要領 生活編 第3章 生活科の内容から

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくできるようにする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

3 単元の評価規準

	A 生活への関心・意欲・態度	B 活動や体験についての思考・表現	C 身近な環境や自分についての気付き
単元の評価規準	秋の自然に関心を持ち、みんなで楽しく生活しようとしている。	四季の変化や、季節によって生活の様子が変わることについて自分なりに考えたり、秋の自然やものを利用した作品作りを工夫したりして、それを素直に表現している。	夏から秋になって、自然の様子が変化したり、季節によって生活の様子が変わったりしていることや、秋の自然を利用し自分の考えを表現するおもしろさに気付く。

学 習 活 動 に 即 し た 具 体 的 な 評 価 規 準	・秋の校庭の樹木・草花などに関心をもつ。① ・秋の公園の樹木・草花や人々の様子などに関心をもつ。② ・秋の自然物を使った作品作りや秋に関心をもつ。③	・夏との変化に気付き、絵や文にまとめることができる。① ・夏との変化に気付いて、秋の校庭について、絵や文にまとめたことを発表する。② ・夏との変化に気付き、友達と協力して、秋の校庭マップを作成することができる。③ ・夏との変化に気付き、秋の公園について絵や文にまとめることができる。④ ・夏との変化に気付いて、秋の公園について絵や文にまとめたことを発表する。⑤ ・夏との変化に気付き、友達と協力して、秋の公園マップを作成することができる。⑥ ・秋の自然物を使って作品を作ったり、夏との違いを考えて、自分の秋を表現したりする。⑦ ・“わたしのあき”を紹介したり、友達が見付けた秋を聞いたりして伝え合う。⑧ ・季節の変化が分かるような文を書くことができる。⑨	・秋の校庭の樹木・草花などの様子が夏から秋へ移り変わっていることに気付いている。① ・秋の公園の樹木・草花などの様子が夏から秋へ移り変わっていることに気付いている。② ・季節の変化によって、自分の生活との関わり合いに気付く。③
--	--	---	---

4 単元指導計画（9時間扱い）

小単元名 (時間)	目標	学習活動	おもな評価規準 ※資料
こ う て い で あ き を さがそう (2時間)	①秋の校庭に出て、初秋の動植物を観察したり、木の実などを集めたりして、夏の頃と様子が変わってきていることに気付くことができる。 ②校庭で秋探しをしたことを基に、秋の校庭マップを作成する。	・夏に観察した校庭の様子と比べて変化したことを見付け、発見カードに書く。 ・変化について、気付いたことを発表し合う。 ・校庭マップに、発見カードを貼って全員で秋の校庭マップを作成する。 ・夏の校庭との違いに気付く。	・校庭の秋の樹木・草花などに関心をもつ。(A①) ・夏との変化に気付き、絵や文にまとめることができる。 (B①発見カード) ・夏との変化に気付いて、秋の校庭について、絵や文にまとめたことを発表する。(B②) ※発見カード ・夏との変化に気付き、友達と協力して、秋の校庭マップを作成することができる。(B③) ・校庭の秋の樹木・草花などの様子が夏から秋へ移り変わっていることに気付いている。(C①) ※校庭マップ

こうえんであ きをさがそう (3時間)	③④秋の公園に出て、初秋の動植物を観察したり、木の実などを集めたりして、夏の頃と様子が変わってきていることに気付くことができる。 ⑤公園で秋さがしをしたことを基に、秋の公園マップを作成する。	・公園にある樹木・草花等を観察する。 ※発見カード ・観察して気付いたことを、友達と発表し合う。 ・マップに、発見カードを貼って全員で秋の公園マップを作成する。 ・夏の公園との違いに気付く。	・公園の秋の樹木・草花や人々の様子などに関心をもつ。(A②) ・夏との変化に気付き、秋の公園について、絵や文にまとめることができる。(B④発見カード) ・夏との変化に気付いて、秋の公園について絵や文にまとめて発表する。(B⑤) ※発見カード ・夏との変化に気付き、友達と協力して、秋の公園マップを作成することができる。(B⑥) ・秋の公園の樹木・草花などの様子が夏から秋へ移り変わっていることに気付いている。(C②) ※公園マップ
わたしの あきをみ つけたよ (2時間)	⑥⑦葉や木の実などを利用して、秋ならではの作品を作ったり、校庭や公園で観察したことを基に、自分が秋だと感じるところを、表現したりする。	・集めた葉や木の実などの特徴を生かして作品を作ったり、今までの学習活動を通して、自分が秋だと感じたところを表現したりする。	・秋の自然物を使った作品作りや秋に関心をもつ。(A③) ・秋の自然物を使って作品を作ったり、夏との違いを考えて、自分の秋を表現したりする。(B⑦)
みつけた あきをし ょうかい しょう (2時間)	⑧“わたしのあき”について、友達と紹介し合う。(本時) ⑨今まで学習してきたことを振り返り、秋の季節について、分かったことや、今後の自分の生活を工夫して楽しめることに気付くことができる。	・作品や自分が見付けた秋の表現活動を友達と紹介し合う。 ・校庭や公園の秋マップを見て、秋の自然と自分の生活にどのように関わっているか、全員で話し合い、今後どのように生活したいか文にする。	・“わたしのあき”を紹介したり、友達が見付けた秋を聞いたりして伝え合う。(B⑧) ・季節の変化が分かるような文を書くことができる。(B⑨) ・季節の変化によって、自分の生活との関わり合いに気付く。(C③)

5 研究主題に迫るために

(1) 本単元の気付き向上プラン作成

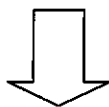
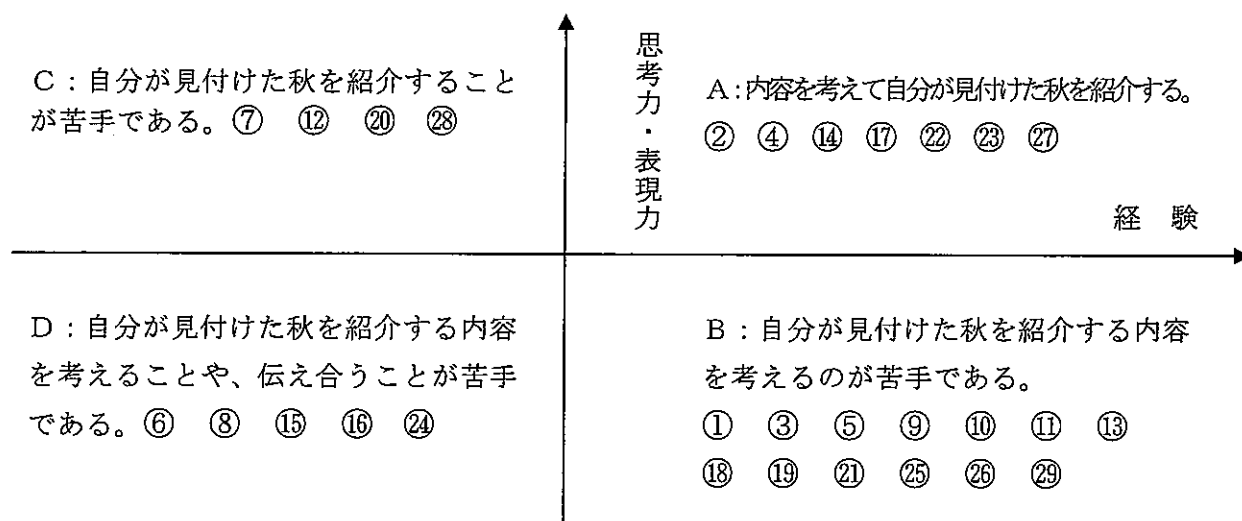
第1学年 生活科「たのしさいっぱい あきいっぱい」

	気付きの段階 (おもな学習活動)	知的な気付き	情意的な気付き	具体的な手だて・教師の支援、「主な言葉掛け」			
				A	B	C	D
5	生活に生かす 気付き (話し合い・作文)	・夏から秋にかけて、虫や草花の様子 が変化するだけでなく、自分た ちの暮らしも変わってきた。	・次は、みんなと一緒に秋のお もちやを作って遊びたい。 ・幼稚園の年長さんを招待した い。	「秋になって夏の生 活と変わったことは 何でしょうか。」		次の単元への意欲付け、幼稚園の年長さんにも自分たちが見付けた 秋を知らせる。【人との関わり】	
4	再認識の気付き (もの作り活動・ 伝え合い・ 話し合い)	・葉っぱの色が変わったことを利用 して、絵を描こう。 ・落ち葉でしおりを作りたい。 ・校庭や公園で秋探しをしたことを 基に、どんぐりで〇〇を作ろう。	・友達や先生に、見付けた秋を 紹介したい。 ・友達が見付けた秋を知りた い。	「友達が見付けた秋 の話を聞いて質問し よう。」 「自分が見付けた秋 を質問しよう。」	紹介メモの作成時に、ヒントやキーワードを記入し たワークシートを配布する。【ワークシートの工夫】 「自分が見付けた秋を紹介 する練習をしよう。」 季節の変化を考えるために、マップを作成すること を知らせる。【見通しをもたせる】 夏探しをしたときの写真を見せる。【ICTの活用】	教師が見本を作成 し、その中から選 ばせる。【見本】	
3	思考的な気付き (マップの作成)	・葉っぱや木の葉を見付けた。 ・今度は虫を捕まえてお世話がした い。 ・いろいろな色の落ち葉があるね。 ・いろいろな形のドングリがあるね。	・また、校庭や公園へ行きたい。 ・風が気持ちいいし、天気がい いから、みんな遊びたい。 ・友達が見付けた秋を自分も探 そう。	「夏の校庭や公園で 変わったところは何 でしょうか。」 校庭や公園で秋探しをしたことを基に、秋の校庭マップを作成する。【ワークシートの工夫】			
2	発見的な気付き (観察)	・校庭のイチョウの葉が黄色になっ てきている。 ・サクラの葉が赤くなってきた。 ・アサガオが枯れてきた。 ・バッタやコオロギを見付けた。	・校庭の地面が冷たい。 ・風が気持ちいい。 ・雲がうろこみたいに見える。 ・もっと自分たちでも探検して みたいなあ。	「秋をもっと知ると めに、校庭や公園で秋 探しをしてみましょ う。いろいろな秋を見 付けてみよう。」	「校庭や公園をよく 歩いて、一番秋らし いと感じるところ を見付けてみよう。」	発見カードが作成できない場合は、教師が 観察する対象を決める。【具体的な助言】	
1	感覚的な気付き (話し合い)	・タ方が早くなった。 ・秋の出の音が聞こえる。 ・アサガオの種取りができる。 ・フウセンカズラの種を拾った。	・涼しくなってきた。 ・汗をかかない。 ・朝が夕方が寒い。 ・〇〇の秋という。	「秋ってどんな季節かな」「秋について、みんなが知っていることを発表しよう」【発問の工夫】 夏と比べて、自分たちの生活が変化したことを発表する友達の話を 聞く。同じだと思うときは、すすんで発表する。【人との関わり】			

(2) 実態（気づきの高まり）把握表作成

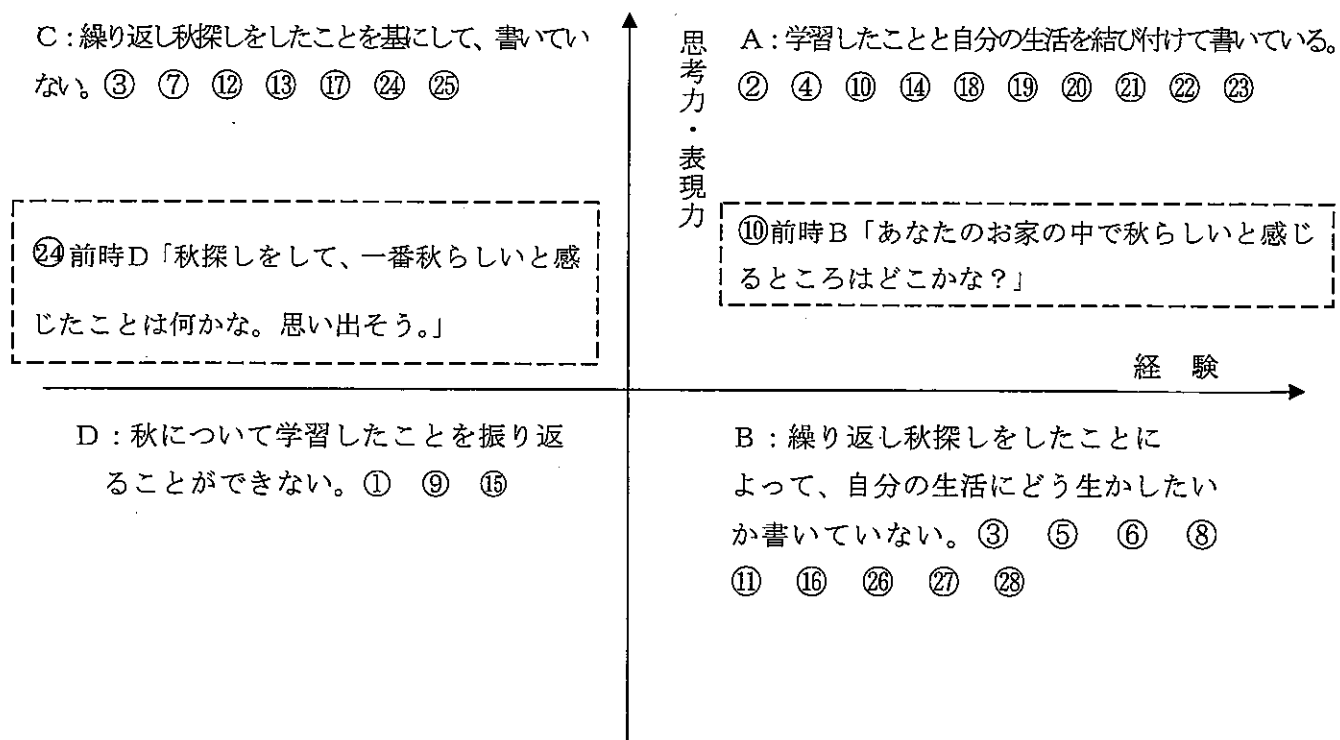
授業実施中の発言や観察、授業後のワークシートを分析し、実態把握表を作成した。

①見つけた秋を紹介し合う（10月21日8時間目）



※ 数字は児童の番号

②秋について学習したことを文にする。（10月24日9時間目）

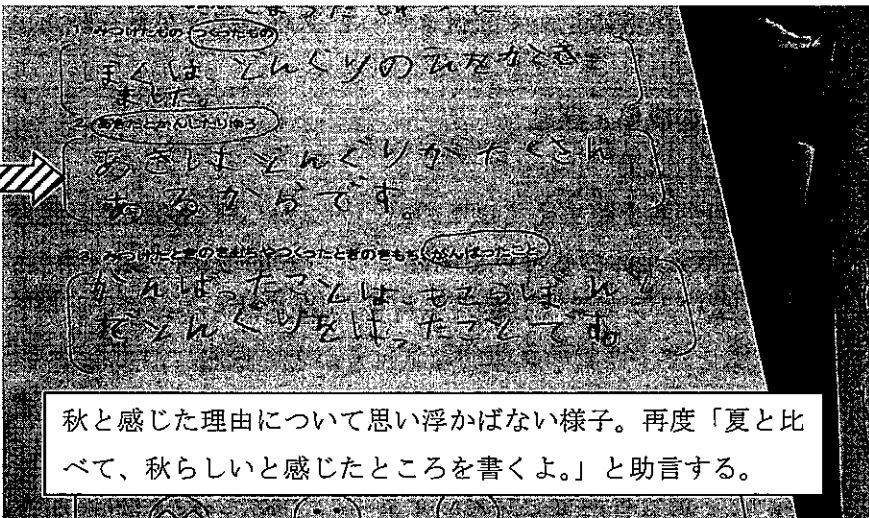


6 本時の指導（8／9）

（1）ねらい

自分たちが見つけた秋について、友達に紹介し伝え合う。

（2）展開

	○学習活動◇教師の支援（気づき向上プランのABCD 児童に有効）	児 童 の 様 子
導	○本時のめあてを確認する。	
入	○紹介内容を確認する。	じぶんが見つけたあきを、ともだちにしようかいしよう ・板書を見て確認する。 見つけたものや作ったもの、秋と感じた理由、感想
展 開	○友達に紹介するための、紹介メモを書く。 ◇自分が見つけた秋をもとに思い出しながら書くことを助言する。（CD） ◇書くことが苦手な児童には、書くヒントが記入してある紹介メモを配布する。（BD） ◇メモが書き終えたら、話す練習をするように知らせる。（AC）※紹介メモ ○自分が見つけた秋を二人組になって、たくさんの友達に紹介する。 ◇事前に、紹介の後、学級全員や担任に話すことを知らせておく。（ABCD）	 秋と感じた理由について思い浮かばない様子。再度「夏と比べて、秋らしいと感じたところを書くよ。」と助言する。  ペアを変えて、紹介
ま と め	○友達の話聞いて、よかったところを発表する。	・ワークシートで自己評価をする。 自分が見つけた秋をうまく話せたか。友達が見つけた秋のよいところに気付くことができたか。

7 実践を振り返って

- ・秋の校庭マップや公園マップを作成することによって、友達が見付けた秋を探す活動に主体的に取り組んだ。その結果、気付きの段階の2（発見的な気付き）と3（思考的な気付き）の継続性が見られた。
- ・本時で紹介メモを作成する際、秋と感じた理由を書く活動では、なかなか書けない児童が多かった。「夏と比べて、秋らしいところを書くよ」と助言したところ、書くのがスムーズになった。
- ・表現が苦手な児童用として、ヒントを書いたワークシートを用意した。しかし、書くことが苦手な児童にとっては、書くことも表現活動の中の一つなので、ワークシートの有効性を考える必要性があった。
- ・本単元の学習のまとめとして、今まで学習したことから、自分の生活と結び付けた作文を書くことができた。書くのが苦手な児童へは、「次はどんな学習がしたいか」と次への学習への意欲を書くよう助言した。その結果、気付きの段階4（再認識の気付き）から5（生活に生かす気付き）へと進める児童が見られた。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

研究の内容を踏まえて以下の三つの点から研究の成果と課題を述べる。

- (1) 単元全体の気付きを明確にし、「知的な気付き」「情意的な気付き」に分類・整理する。
 - ・気付きの質を「知的な気付き」「情意的な気付き」に分け、段階的に捉え、定義付けしたことで、児童の具体的な気付きがどの段階に当てはまるのか分かりやすくなった。
 - ・気付きの質の高まりについても明確になり、高まりを意識した学習計画を立てることができた。
- (2) 「気付き向上プラン」を基に、一人一人の実態に合わせた支援を講じる。
 - ・気付きを分類・整理し、「気付き向上プラン」の中に気付きを高めるための具体的な手だてを示すことができた。また、その手だてが有効だったかどうか検証することを通して、どの気付きの段階に、どのような手だてが有効か明らかになった。
- (3) 「気付き向上プラン」を基に支援した結果、児童がどのように変容したかを「実態把握表」で見取る。
 - ・「実態把握表」を使うことで、児童の変容を明らかにすることができた。
 - ・児童の状況に合わせた、具体的な支援につなげることができた。

2 研究の課題

- ・気付きの段階と気付きの質を高めるための具体的な手だてを明確にして、五つの単元を実践した。今後は、全ての単元において「気付き向上プラン」を作成し、手だてを明確にしていくこと。
- ・「実態把握表」から、児童の変容を見取ることができたが、それをどう評価とつなげていくかについて、研究を深めること。

平成23年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 生 活

地区	学校名	職名	氏名
新宿区	淀橋第四小学校	主任教諭	久保田恵美
台東区	金曾木小学校	教 諭	七海 智美
大田区	久原小学校	教 諭	○高橋有希子
昭島市	武蔵野小学校	教 諭	◎石川 修一
西東京市	谷戸第二小学校	主任教諭	中野 美絵

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
指導主事 大須賀 慎一

平成 23 年度
教育研究員研究報告書
小学校 生活

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 181 号

平成 24 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画